

学生確保の見通し等

目 次

1. 学生確保の見通しおよび申請者としての取り組み状況…………… P1
2. 人材需要の動向等社会の要請…………… P5

1. 学生の確保の見通しおよび申請者としての取り組み状況

1) 学生確保の見通し

(1) 現職看護専門職者の受け入れについて

本学看護学科の臨地実習を依頼している病院のうち数か所とは、本学科の教員が病院の看護研究を支援する体制が整備され始めており、臨床場面で個々の看護師が直面している課題に関して研究的方法論を用いて教員と共に解決を図っている。こうした取り組みを通して、看護師の中から「研究的な方法論をしっかりと学び、自身で課題を解決できる力を獲得し、現場の看護師たちと一緒に実践を高めていきたい。」という者も現れており、大学院看護学研究科が開設された折には進学を視野に入れている看護師も見受けられる。これまでの実習病院との関係性から本学科の教員への信頼も伺え、実習病院と協力しながら看護の質向上への取り組みの一環として、現場の看護師の実践力向上の場の提供は重要な意味を持ち、看護学研究科の設置は現場からも期待されているものと推測される。

文京学院大学大学院看護学研究科看護学専攻（修士課程）開設に対する医療機関の看護師の意向を把握するため、文京学院大学保健医療技術学部看護学科の主な実習施設である4施設に対してアンケート調査を依頼した。その結果、有効回答数279名のうち臨床の仕事の続けながら大学院で学びたいと思っている看護師は、全体の5割以上であった。

問1 臨床のお仕事を続けながら大学院で学びたいと思いますか？

	全く思わない	あまり思わない	少し思う	とても思う	総計
人数	43	78	114	44	279
%	15.4	28.0	40.9	15.8	100.0

また本学に大学院看護学研究科が開設されることに対して、4割は関心を示し、4割弱の者が、本学大学院看護学研究科が開設された場合、仕事を続けながら大学院へ進学したい思いがあると回答した。

問3 文京学院大学大学院に看護学研究科が開設されることに関心はおありですか？

	全く関心がない	あまり関心がない	少し関心がある	とても関心がある	総計
人数	49	117	100	13	279
%	17.6	41.9	35.8	4.7	100.0

問4 文京学院大学大学院に看護学研究科が開設された場合、お仕事を続けながら大学院に進学したい思いはありますか？

	全くない	ほとんどない	少しある	かなりある	非選択	総計
人数	62	114	88	14	1	279
%	22.2	40.9	31.5	5.0	0.4	100.0

アンケート実施時期の4施設の看護師数の合計は3,120名であったが、配布や回収に伴う施設の負担軽減を図るためアンケート依頼数は約10分の1である300名とした。そのため、このアンケート結果を単純に全看護師数に当てはめて換算するわけにはいかないが、今回のアンケートに参加していない看護師の潜在的なニーズも勘案すると、本学大学院看護学研究科の開設後、この4施設から進学希望の看護師を確保することは期待できる。

現任の看護専門職者（社会人学生）を受け入れるにあたり就業しながら学びたいというニーズに対して本大学院では長期履修制度を設けて、必修科目の履修や研究計画作成に要する時間的な負担をできる限り少なくし、社会人学生が学修しやすい環境の整備に努める。また社会人学生は夜勤などの不規則な時間帯による交代勤務や超過勤務などを余儀なくされる場合が予想される。時間や場所に縛られない多様な学習ニーズに応えるため、上記の平日の夜間開講、土曜日開講に加えて、メディア授業等を積極的に取り入れ、大学の教室以外の場所でいつでも受講できるようオンデマンド型の講義配信、またはオンライン型の授業参加により履修できるようにする。本学大学院は、対象者の意思決定や行動変容等を支援する高い教育的な看護実践力を備えた人材の育成を目指しており、大学院修了後は、臨床の場で実践力を発揮するとともに周囲の看護専門職者に対して啓発的な働きかけを実施し、現場の看護の質向上に貢献できる人材の輩出を重要な使命に位置づけている。そのため、就業している看護専門職者が、仕事を継続しながら大学院で学び、臨床の場に学びを反映し、戻っていける環境を担保することを重要な取り組みに位置づけており、今後も様々支援計画を立案していく。

(2) 学部卒業生の受け入れ

文京学院大学保健医療技術学部看護学科は、平成30年3月に第1期生が卒業し、令和2年3月までの卒業生を合わせると217名を社会に送り出している。第1期（平成29年度）および第3期（平成31年度）の卒業生170名に対して本学大学院看護学研究科の開設に関して Google forms を用いて調査したところ、計109名より回答（回答率64.1%）が得られた。

調査の対象は臨床経験3年未満であるが、看護師として勤めている全員が看護実践力をより高めたいと思う時期がくると感じており、早期より自己のキャリアを考え、高い学習意欲をもっていることがわかった。

問4 「今後、ご自分の看護実践力をより高めたいと思う時期がくると思いますか？」

	回答数	パーセント
① はい	104	95.4
② いいえ	5	4.6
合計	109	100.0

また、約9割が働きながら実践力を高める機会を希望しており、その内の7割以上は母校で学びたいと回答していた。大学院看護学研究科（修士課程）の開設へのニーズは高く、進学を視野にいれている卒業生が、母校で再び学ぶことを選択していけるような

機会を提供できることが重要である。

問5 「働きながら実践力を高める機会がほしいと思いますか？」

	回答数	パーセント
① はい	95	87.2
② いいえ	14	12.8
合 計	109	100.0

問5「働きながら実践力を高める機会がほしいと思いますか？」と問6「今後、本学に実践力を高めることができる大学院があれば、学びたいと思いますか」のクロス集計

		本学への希望		
		はい	いいえ	合 計
働きながら実践力を高め る機会がほしい	はい	71	24	95
	いいえ	3	11	14
合 計		74	35	109

進学を希望している卒業生の中には「働きながら大学院で学べる場が身近にあると嬉しいと思います。」「看護師として、働き始めてから新たにより深く看護について学べる場所が欲しいと思いました。」といった声が寄せられている。卒業生にとっても本学大学院看護研究科の設置は重要な意味を持つと考える。就労しながら大学院で学ぶ希望が多いことも踏まえ、長期履修制度等の整備を図ることが求められる。

「大学院ができれば通いたいです。」という意見もあり、大学院設置を期待している卒業生がいることも確かであり、大学院に進学してくる学生を確保できると考える。加えて、本学では卒業年の5月にHome Coming Dayを設定しており、過去2年間、9割以上の卒業生が集まってくる。また本学科が開催する研修会や在学生への講話、高等学校教員への実習室公開等、様々な大学行事に多くの卒業生がボランティアで力を貸してくれており、4年間の大学生活において本学と強固な繋がりを築いた学生も多く、大学院進学を考える上で、母校で学びたいと考える学生は一定以上いるものと推測される。もちろん、本学の卒業生に限ることなく、様々な看護系大学の卒業生の受け入れを考えている。本学の教員は、これまで就任していた大学の教員と教材開発を検討したり、他大学の教員と学会活動等で協働したりしており、こうした活動の中で他大学の学生との交流も多くある。その際に本学大学院看護学研究科が目指す人材育成に関して、他大学の学生に伝える機会を得ることは可能であり、様々な基礎看護教育を受けた学生が本大学院を目指す契機になることは十分に考えられ、背景の異なる学生が互いに刺激し合える環境になり得る。

(3) 学生納付金設定の考え方

学生納付金については、東京都内の私立看護系大学大学院(8大学)の学生納付金を勘案し、本学の納付金を入学金 200 千円、授業料 632 千円(1年次 年間)、施設費 100 千円(1年次のみ)、維持管理費(年間)80 千円、演習費 100 千円とし、初年次納付金は 1,112 千円としている。学生納付金設定に関わる東京都内私立看護系大学院の初年次納付金は以下のとおりである。

●杏林大学大学院保健学研究科看護学専攻	1,250 千円(うち入学金 250 千円)
●上智大学大学院総合人間科学研究科看護科学専攻	1,438 千円(うち入学金 200 千円)
●聖路加国際大学大学院看護学研究科看護学専攻	1,750 千円(うち入学金 400 千円)
●帝京大学大学院医療技術学研究科看護学専攻	1,142.4 千円(うち入学金 306 千円)
●東京医療保健大学大学院看護学研究科看護学専攻	1,584.5 千円(うち入学金 500 千円)
●東京慈恵会医科大学大学院医学研究科看護学専攻	1,000 千円(うち入学金 200 千円)
●東京女子医科大学大学院看護学研究科看護学専攻	1,500 千円(うち入学金 300 千円)
●東邦大学大学院看護学研究科看護学専攻	1,100 千円(うち入学金 100 千円)

2) 学生確保に向けた具体的な取り組み状況

(1) これまでの学生確保に向けた取り組み

本大学院の設置に関しては、申請前の段階では、変更があり得ることを前提として実施しているため、情報を公開するにあたり、この点を十分に留意して実施した。卒業生には、前述のアンケートを依頼の際に令和3年4月に大学院看護学研究科が開設される可能性を伝えた。その後、関心のある卒業生からの問い合わせには、学科長が対応し、設置の趣旨や個々の卒業生が看護実践力を向上させる機会にして欲しい旨を説明した。また同様にアンケートを依頼した4つの実習施設を含め、保健医療技術学部看護学科の実習を依頼している各病院に対しては、実習調整や実習報告会等の機会に本大学院の準備状況に関して情報を提供するように鋭意心がけた。さらに都内の病院等で研修会や講習会の講師を本学科の教員が担う際には、参加者に大学院設置に関する情報を提供し、終了後には、関心を示した参加者からの質問に丁寧に対応した。

(2) 今後の取り組み

今後、以下のような取り組みを実施し、学生の確保に努める。

①大学のホームページ等を活用した広報活動

令和2年度から本学ホームページで本大学院の構想を掲載する。また一般社団法人日本看護系大学協議会のザ・データベース・オブ JANPU を活用し、本学看護学科の紹介とともに大学院設置の準備に関しても紹介する。

②オープンキャンパスに伴う広報活動

本学では年間7回のオープンキャンパスを開催している。またオープンキャンパスでは、看護学科の実習室を公開し、様々な体験コーナーを設置しており、本学科を目指している高校生等に盛況である。将来的に大学院への進学も考えてもらうために、こうした高校生や保護者への広報はもとより、大学院進学の相談ブースを設置する。オープンキャンパスのパンフレットやリーフレットに相談ブースに関しても掲載してもらい、周知をはかる。

③大学院進学の相談日の設定

設置申請の承認後から入試までの間は、月1回第2土曜日に大学院の進学相談日を設定して、様々な疑問等に丁寧に対応する。対応教員は2名として、大学院に関わる教員でローテーションを組み、教員側のモチベーションも高める。

④大学院設置計画のリーフレットの作成・配布

令和2年度から本大学院に関する設置計画に関する案内を記載したリーフレットを作成し、臨地実習を委託している病院や施設等に配布する。可能な限り教員が持参して、説明を加える。また、学部の学生への配布はもちろん、入試広報センター等、外部の関心・興味のある人々が手軽に入手できる箇所に設置して、周知に努める。

2. 人材需要の動向等社会の要請

1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

本研究科では、人々の尊厳を守りながら個々人の意思決定を支え、その人が望む生活を営むために必要な健康行動を獲得し、直面した健康問題を解決できる能力を身につけることを支援する教育的な看護を実践できる人材育成を目指している。そのためには、研究的方法論を活かして問題や課題を分析して最善策を見出す能力、高い倫理観をもち人々の意思決定を支援できる能力、エビデンスに基づいて思考し、教育的な看護を実践できる能力、保健医療福祉システムの中で様々な人々や多職種と連携・協働する力を育成することが必要と考えている。特に、健康の保持・増進や健康回復に必要なとされる健康行動は、個々人の日常生活習慣に深く結びついており、行動を変容していくことは決して容易ではない。したがって、教育的な看護実践では、個々人が大切にしている信条や価値観を丁寧に探り、尊重した上で、生活習慣の変容の難しさを十分に理解し、“知識として理解していても、生活習慣の改善を継続することができない”状況を受け止めながら、対象者と共に健康行動を継続できる方策を検討し、その人の意思決定と継続していこうとする思いを支援できる力の育成が重要である。行動変容が困難な事例に対しても、健康行動を獲得あるいは継続できない要因について研究的方法論を用いて明らかにし、その解決方法を個々人の生活に当てはめながら最善策を見出すと共に個々人の意思決定のあり方を深慮しながら支え、個々人の健康行動継続を支援するために必要な人々と協働できる看護実践力を携えた人材育成を目指す。また、こうした看護実践力は、個人に限らず集団や地域を対象とした場合にも発揮されるものである。

2) ディプロマ・ポリシー

以下の能力を修得し、修了に必要な単位を取得し、かつ必要な研究指導を受けた上で修士論文の審査に合格した人に修士(看護学)の学位を授与することとする。

- (1) 人々の生活の場や臨床の場で直面する様々な課題に関して研究的方法論を活かして分析し、最善策を見出す能力を修得している。
- (2) 高い倫理観をもち人々の意思決定を支援できる能力を修得している。
- (3) 個々人が望む生活を営むためには、個々人が自身の健康を保持・向上していく力を獲得しなければならないことに主眼を置き、こうした力を人々が獲得できるように教育的な看護を実践できる。
- (4) 保健医療福祉システムの中で、様々な人々や多職種と連携・協働する力を修得している。

3) 上記1) 2) が社会的・地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

(1) 高齢社会において人々の健康の維持・管理能力を高められる看護専門職者の重要性

日本の総人口は2018年10月1日現在1億2644万3千人であり、前年に比べ26万3千人の減少となっている。そのうち、老年人口が占める割合は28.1%であり、超高齢社会を迎えている。また2018年の国民生活基礎調査を基にした統計では、世帯総数5099万1千世帯のうち核家族世帯の割合は2014年以降60%前後で推移しており、夫婦のみの世帯の割合が拡大している。また65歳以上の者がいる世帯数は48.9%を占めており、これを世帯構造別に見ると夫婦のみの世帯が最も多く32.3%を占め、27.4%の単独世帯と合わせると高齢者の6割近くが夫婦またはひとり暮らしという状況にある。さらに国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、第2次ベビーブーム期(1971年～1974年)に生まれた世代が65歳以上となる2040年には、老年人口割合は35.3%になると見込まれている。すなわち、この超高齢社会においては今後も高齢人口割合は増え続け、高齢者が疾患や障害を抱えた場合、住み慣れた自宅で生活することは極めて難しい状況になり得るものの、十分な支援を受けられないまま自宅での生活を選択せざるを得ない状況が生じる可能性を示唆している。しかしながら、日本が直面している少子高齢化の人口構造は短期間で変化するものではなく、こうした人口構造や世帯構造から生じる様々な課題を解決あるいは予防していくことが看護専門職者に求められる。特に2000年12月に策定された「21世紀における国民健康づくり運動(健康日本21)」(健康日本21企画検討会・健康日本21計画策定検討会)では、寝たきりや認知症などによる要介護状態ではなく、生活を送れる期間(健康寿命)を延伸し、すべての国民が健やかで活力ある社会となることが掲げられ、高齢になっても本人が望む生活を自身で送れるような支援の必要性が明確に打ち出された。さらに2012年には「健康日本21(第二次)」が策定され、①健康寿命の延伸と健康較差の縮小、②生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底、③社会生活を営むために必要な機能の維持および向上、④健康を支え、守るための社会環境の整備、⑤栄養・食生活、身体活動・運動、休養、飲酒、喫煙および歯・口腔の健康に関する生活習慣および社会環境の改善が基本的な方向とされ、健康レベルを維持するためにも若年期・青壮年期から基本的な生活習慣を整えていくことの重要性が強調されている。このように少子高齢化が進み超高齢社会を迎えた日本においては、若い頃より人々が自身の健康保持に関心を持ち、日々の生活の中で健康の保持・向上に繋がる生活習慣を獲得する必要がある。看護専門職者には、人々がこうした生活習慣を獲得できるような看護の提供が求められ、まさに“教育的な支援”が欠かせないものとなる。また加齢に伴い生理的機能や予備能は否応なく低下するため、高齢者が慢性疾患を抱えることは避けられない面もある。そのため、「健康日本21(第二次)」でも掲げられているように重症化を防ぐことが重要となり、できる限り現状を維持しながら心身の機能や状態が低下する速度を緩やかにしていくような生活のあり方を整えることが求められ、個々人への“教育的な支援”とともに社会環境や制度等に働きかけていける看護専門職者の育成が急務となる。

以上、述べてきたように本学大学院看護学研究科が目指す人材育成は、現在よりもより今後の日本社会の動向を踏まえた要請に応えるものである。

(2) 大都市圏の人口集中において求められる教育的支援の必要性

国立社会保障・人口問題研究所の将来推計では、第2次ベビーブーム期(1971年～1974年)に生まれた世代が65歳以上となる2040年の東京都の老年人口割合は29.0%になると見込まれている。この値は、47都道府県の中では最も低く、2040年の全国平均の老年人口割合の35.3%を大きく下回っている。しかしながら、将来人口数を考慮すると、2040年の東京は1,375万9千人と推計されており、老年人口は399万人となるが、2040年に最も高齢人口割合が高い(44.4%)と見込まれている青森県では人口が90万9千人であり、老年人口は40万3千人となる。すなわち、大都市への人口集中傾向は今後も継続するため、東京の老年人口数は急速に増加し続けることになり、健康寿命の延伸を確かなものにする必要がある。したがって、都内の看護専門職者が効果的な“教育的な支援”を提供できる力を獲得できる場として本学大学院の開設は重要な意味を持つ。また総務省統計局が公表している「住民基本台帳人口移動報告」2017年結果では、東京都の転入超過率は0.57%と最も高く、東京都特別区への転入者数を5歳階級別にみると20歳～24歳が約91万人と最も多く、次いで25歳～29歳が約80万人、30歳～34歳が約51万人であった。一方、2017年の年齢階級別死因別死亡率(人口10万対)を見ると、東京都特別区への転入者数が多い20歳～24歳、25歳～29歳、30歳～34歳のいずれとも自殺による死亡率が最も高い。すなわち、こうした年齢層の心身の健康保持を支えられる看護専門職者の育成を考える上でも、対象者の意思を尊重しながら対象者の悩みに寄り添い、相談を受けていける高度な実践力の育成が必要であり、本学大学院が目指す“人々の尊厳を守りながら個々人の意思決定を支え、個々人が自身の望む生活を営むために必要な健康行動と健康問題を解決できる能力を獲得できるように支援する”人材育成は、その基盤に成り得る。

目 次

- 資料 1 文京学院大学大学院看護学研究科(修士課程)設置に関するアンケート調査
報告書

文京学院大学大学院看護学研究科（修士課程）
設置に関するアンケート調査

報告書

令和2年8月18日
文京学院大学

目次

I. 本学看護学科の卒業生への調査	1
1. 調査概要	
2. 調査方法と調査実施件数	
3. 本学看護学科卒業生へのアンケート調査結果および分析	
II. 日本医科大学の看護師への調査	4
1. 調査概要	
2. 調査方法と調査実施件数	
3. 日本医科大学の看護師へのアンケート調査結果および分析	
III. 依頼文、アンケート用紙	7
1. 本学看護学科の卒業生への調査	
2. 日本医科大学の看護師への調査	

I. 本学看護学科の卒業生への調査

1. 調査概要

- 1) 調査の目的 本調査は 2021 年 4 月開設に向けて構想中である文京学院大学大学院看護学研究科修士課程(以下、本大学院)に対する学生募集ニーズを主要な入学予定者として想定している本学看護学科の卒業生を対象に、アンケート調査によって計測することを目的としたものである。
- 2) 調査期間 2020 年 8 月 1 日～2020 年 8 月 9 日
- 3) 調査方法 インターネットリサーチ
Google Forms にてアンケートを作成、連絡先が登録されている卒業生へメールにて依頼した。
- 4) 調査対象者 第 1 期 (2017 年度)、第 2 期 (2018 年度)、第 3 期 (2019 年度) 卒業生
- 5) 調査内容 大学院看護学研究科の開設に伴い、看護実践を高めることや大学院で学ぶことに対する卒業生のニーズ
- 6) 有効回答数 109 名

2. 調査方法と調査実施件数

本大学院は、本学看護学科卒業生を主要な入学予定者として想定している。今回のニーズ調査では本学看護学科卒業生に協力をいただいた。

アンケート依頼のメール配信数は 170 名、有効回答数は 109 名 (回答率 64.1%) であった。

アンケート調査を依頼した内訳

アンケート依頼先	配信数	有効回答数
本学看護学科卒業生	170	109

3. 本学看護学科卒業生へのアンケート調査結果および分析

問 1. 卒業年度を教えてください。

①第 1 期生 ②第 2 期生 ③第 3 期生

	回答数	パーセント
① 第1期生	35	32.1
② 第2期生	17	15.6
③ 第3期生	57	52.3
合 計	109	100.0

問2. あなたが現在保有している免許を教えてください（複数回答可）

①看護師 ②保健師 ③助産師

	回答数	パーセント
① 看護師	109	100.0
② 保健師	18	16.5
③ 看護師	2	1.8

問3. あなたの現在の就業状況を教えてください。

①看護師 ②保健師 ③助産師 ④学生 ⑤専業主婦

	回答数	パーセント
① 看護師	104	95.4
② 保健師	2	1.8
③ 助産師	1	0.9
④ 学生	1	0.9
⑤ 専業主婦	1	0.9
合 計	109	100.0

問4. 今後、ご自分の看護実践をより高めたいと思う時期がくると思いますか？

①はい ②いいえ

	回答数	パーセント
① はい	104	95.4
② いいえ	5	4.6
合 計	109	100.0

問5. 働きながら実践力を高める機会がほしいと思いますか？

①はい ②いいえ

	回答数	パーセント
① はい	95	87.2
② いいえ	14	12.8
合 計	109	100.0

問6. 今後、本学に実践力を高めることができる大学院があれば、学びたいと思いますか？

①はい ②いいえ

	回答数	パーセント
① はい	74	67.9
② いいえ	35	32.1
合 計	109	100.0

問7. あなたは下記のどの領域に興味・関心がありますか（複数回答可）

①急性期看護 ②慢性期看護 ③地域看護 ④老年看護 ⑤小児看護
⑥母性看護 ⑦精神看護

	回答数	パーセント
① 急性期看護	59	54.1
② 慢性期看護	51	46.8
③ 地域看護	29	26.6
④ 老年看護	28	25.7
⑤ 小児看護	21	19.3
⑥ 母性看護	14	12.8
⑦ 精神看護	12	11.0

問8. 大学院に対するご意見・ご要望をご自由にお書きください

・看護師として、働き始めてから新たにより深く看護について学べる場所が欲しいと思いました。
・大学院ができれば通いたいです！
・私は卒業し大学病院に勤めていますが、在学中に大学院があったら、もっと深く学べたのになと思います。
・学びたいと思うときはくるかもしれないが、距離が遠く文京学院で学ぶことを視野に入れたいと思います。
・勉強をしたいと思っても、仕事をしながら一人で勉強をすることは難しい現状がある。他者と意見を交わしながら学べる機会ができることは自分を高めることができると考えます。
・働きながら大学院で学べる場が身近にあると嬉しいと思います。
・大学院の開設をお待ちしています。

II. 日本医科大学の看護師への調査

1. 調査概要

1) 調査の目的 本調査は令和3年4月開設に向けて構想中である文京学院大学大学院看護学研究科修士課程(以下、本大学院)に対する学生募集ニーズを主要な入学予定者として想定している近隣の日本医科大学の看護師を対象に、アンケート調査によって計測することを目的としたものである。

2) 調査期間 2018年12月～2019年1月

3) 調査方法 本学周辺地区の病院 看護部へ依頼

4) 調査対象者 本学周辺地区の病院(4施設)に所属する看護師・保健師・助産師

5) 調査内容 就業しながら大学院での学びを希望する看護職者の就学意欲について

6) 有効回答数 279名

2. 調査方法と調査実施件数

本大学院は、近隣の病院に勤務する看護師を主要な入学予定者として想定している。今回のニーズ調査では近隣の日本医科大学の看護師に協力をいただいた。

アンケート用紙の配布部数は300部であり、有効回答数は279(回答率93%)であった。

アンケート調査を依頼した内訳

アンケート依頼先	配布部数	有効回答数
日本医科大学付属病院	300	279

3. 日本医科大学の看護師へのアンケート調査

問1 臨床のお仕事を続けながら大学院で学びたいと思いますか？

1 全く思わない 2 あまり思わない 3 少し思う 4 とても思う

	1 全く思わない	2 あまり思わない	3 少し思う	4 とても思う	総計
人数	43	78	114	44	279
%	15.4	28.0	40.9	15.8	100.0

問2 問1で「2 あまり思わない, 3 少し思う, 4 とても思う」の○をつけた方にお尋ねします。下記にあげています分野の中で、大学院において学びたいと思う分野をお選び下さい。いくつ選んでも構いません。

- 1 慢性期看護 2 周術期看護 3 高齢者看護 4 終末期看護
5 がん看護 6 小児看護 7 母性看護 8 精神看護

- 9 在宅看護 10 救命救急看護 11 家族看護 12 外来看護
13 看護管理 14 看護教育

これ以外で学びたい領域がある場合は記載して下さい。

()

No.	分野		選択	非選択	総計
1	慢性期看護	人数	27	252	279
		%	9.7	90.3	
2	周術期看護	人数	42	237	279
		%	15.1	84.9	
3	高齢者看護	人数	32	247	279
		%	11.5	88.5	
4	終末期看護	人数	63	216	279
		%	22.6	77.4	
5	がん看護	人数	59	219	278
		%	21.2	78.8	
6	小児看護	人数	15	264	279
		%	5.4	94.6	
7	母性看護	人数	17	262	279
		%	6.1	93.9	
8	精神看護	人数	24	255	279
		%	8.6	91.4	
9	在宅看護	人数	52	227	279
		%	18.6	81.4	
10	救命救急看護	人数	54	225	279
		%	19.4	80.6	
11	家族看護	人数	47	232	279
		%	16.8	83.2	
12	外来看護	人数	15	264	279
		%	5.4	94.6	
13	看護管理	人数	51	228	279
		%	18.3	81.7	
14	看護教育	人数	62	216	278
		%	22.3	77.7	

問3 文京学院大学大学院に看護学研究科が開設されることに関心はおありですか？

- 1 全く関心がない 2 あまり関心がない 3 少し関心がある 4 とても関心がある

	1 全く関心がない	2 あまり関心がない	3 少し関心がある	4 とても関心がある	総計
人数	49	117	100	13	279
%	17.6	41.9	35.8	4.7	100.0

問4 文京学院大学大学院に看護学研究科が開設された場合、お仕事を続けながら大学院に進学したい思いはありますか？

1 全くない 2 ほとんどない 3 少しある 4 かなりある

	1 全くない	2 ほとんどない	3 少しある	4 かなりある	非選択	総計
人数	62	114	88	14	1	279
%	22.2	40.9	31.5	5.0	0.4	100.0

問5 大学院で取得できる資格でありますCNS(Certified Nurse Specialist)を取得したいと思いますか？

1 全く思わない 2 あまり思わない 3 少し思う 4 とても思う

	1 全く思わない	2 あまり思 わない	3 少し思う	4 とても思う	非選択	総計
人数	40	107	108	20	4	279
%	14.3	38.4	38.7	7.2	1.4	100.0

問6 お仕事を続けながら大学院で学ぶ際に大学に配慮してほしいことがあれば自由にお書き下さい。

回答なし

文京学院大学大学院看護学研究科（修士課程）設置にかかる卒業生からの 要請に関するアンケート内容

【卒業生へのメール依頼文】

件名「大学院設立に関するアンケートへのご協力のお願い」

文京学院大学保健医療技術学部看護学科卒業生のみなさまへ

大学院設立に関するアンケートへのご協力のお願いです。

本学では看護実践力を高めることに重点をおいた看護学専攻修士課程設立を目指しております。母校に大学院ができることは、みなさまと後輩のキャリア形成や生涯学習を支えます。また、広く看護師の看護実践力向上に貢献し、社会的意義が大きいと考えています。

みなさんたち、お一人お一人の声がとても貴重なものとなります。大学院設立に関するアンケートへのご協力を何卒よろしくお願いいたします。

尚、本アンケートは無記名で実施し、全て統計的に処理します。回答者個人が特定されることはなく、他の目的で使用することはありません。

【Google forms 内のアンケート内容】

【問1】 卒業年度を教えてください。

- ① 第1期生
- ② 第2期生
- ③ 第3期生

【問2】 あなたが現在保有している免許を教えてください（複数回答可）

- ① 看護師
- ② 保健師
- ③ 助産師

【問3】 あなたの現在の就業状況を教えてください。

- ① 看護師として働いている
- ② 保健師として働いている
- ③ 助産師として働いている
- ④ 学生
- ⑤ 専業主婦

【問4】 今後、ご自分の看護実践力をより高めたいと思う時期がくるとお考えですか？

- ① はい
- ② いいえ

【問5】 働きながら実践力を高める機会がほしいと思いますか？

- ① はい
- ② いいえ

【問6】 今後、本学に実践力を高めることができる大学院があれば、学びたいと思いますか？

- ① はい
- ② いいえ

【問7】 あなたは下記のどの領域に興味・関心がありますか（複数回答可）

- ① 急性期看護
- ② 慢性期看護
- ③ 地域看護
- ④ 老年看護
- ⑤ 小児看護
- ⑥ 母性看護
- ⑦ 精神看護

【問8】 大学院に対するご意見・ご要望をご自由にお書きください。

以上

依頼文、アンケート用紙（日本医科大学の看護師への調査）

大学院（修士課程）への進学に関するアンケートへのご協力をお願い

皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

日頃より文京学院大学保健医療技術学部看護学科の臨地実習に関しまして、多大なご協力を賜り、有難うございます。

お陰様で、本年度末で3回目の卒業生を送り出すことができます。

これも偏に皆様方のご指導のお陰と感謝申し上げます。

また、各病院の皆様の部署の中にも、本学科の卒業生がお世話になっている部署があるかと存じます。未熟な面も多いかと存じますが、どうぞご指導のほど、宜しくお願い致します。

さて、開学から6年目を迎えますことに鑑み、本学では、学部の看護基礎教育に加え、大学院看護学研究科の開設を検討することになりました。

つきましては、本学科の教育を身近に感じて下さっている臨地実習協力病院の看護師の皆様に大学院（修士課程）への進学に関して率直なご意見を頂きたいと考えました。

お忙しい中、誠に恐縮ではございますが、添付のアンケート用紙へのご回答をお願い致します。

無記名での回答でございます。また本アンケートへのご協力の有無による不利益は全くございません。

回収に関しましては、各病院の看護部に期日や方法をお任せ致しておりますので、看護部からのご連絡に沿って下さい。

どうぞ宜しくお願い致します。

文京学院大学保健医療技術学部
看護学科長 横田素美

(アンケート用紙)

下記の質問に関して、当てはまる選択肢の番号に○をおつけ下さい。

問1 臨床のお仕事を続けながら大学院で学びたいと思いますか？

- 1 全く思わない 2 あまり思わない 3 少し思う 4 とても思う

問2 問1 で「2 あまり思わない, 3 少し思う, 4 とても思う」に0をつけた方にお尋ねします。下記にあげています分野の中で、大学院において学びたいと思う分野をお選び下さい。いくつも選んでも構いません。

- 1 慢性期看護 2 周術期看護 3 高齢者看護 4 終末期看護
5 がん看護 6 小児看護 7 母性看護 8 精神看護
9 在宅看護 10 救命救急看護 11 家族看護 12 外来看護
13 看護管理 14 看護教育

これ以外で学びたい領域がある場合は記載して下さい。

問3 文京学院大学大学院に看護学の研究科が開設されることに関心はおありですか？

- 1 全く関心がない 2 あまり関心がない 3 少し関心がある
4 とても関心がある

問4 文京学院大学大学院に看護学研究科が開設された場合、お仕事を続けながら大学院に進学したい思いはありますか？

- 1 全くない 2 ほとんどない 3 少しある 4 かなりある

問5 大学院で取得できる資格であります CNS (Certified Nurse Specialist)を取得したいと思いませんか？

- 1 全く思わない 2 あまり思わない 3 少し思う 4 とても思う

問6 お仕事を続けながら大学院で学ぶ際に大学に配慮して欲しいことがあれば自由にお書き下さい